

城下士兒玉家の日記下

安藤保

(一九八三年十月十五日 受理)

差出

已札御改元

家内人数六人

内耆人死人

現人数五人

出銀五分

右は当酉年老分出銀とメ上納仕候、以上

酉九月六日

二番与家督

兒玉五兵衛印

二番触役所

本文福崎清之進殿所江嘉永二年酉九月六日差出ス

ふた紙

嘉永三年戊五月

差出

菱刈李之介組
御小姓与

兒玉五兵衛

二番組小与七番方限
御小姓与

安藤

保(研究紀要 第三十五卷)

一 持高式拾六石式斗五升

一 御家老座書役

但、御軍役不被仰付置候

一 当戌四拾六歳

一 居所高見馬場

右御用御見合相成候間、可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此

段申上候、以上

嘉永三年戊五月

兒玉五兵衛印

六組触役所

右之通戊五月廿日、同案式通ヲ以、小与頭湯地甚之丞殿所江為持差遣候事

差出

已札御改元

家内人数六人

内耆人死人

右は切支丹宗門御改ニ付、被仰渡趣承知仕候、右宗旨之者無御座候、若

以後入来申候は、即言上可仕候、以上

戌六月十六日

一番触役所

一番与家督

児玉五兵衛印

右之通今日小与頭山崎半助殿江差出ス

一 五兵衛事、御家老座書役にて口永良部島詰在番景勢として、酉春代渡海被仰付、酉正月廿一日乗船被仰付、同二月十二日鹿兒島打立鹿籠浦迄差越、牧口浦之善左衛門所江同三月三日まで滞在船待いたし、善左衛門仕出之鯉船候、酉三月四日昼時分出帆、翌五日期朝四ツ時分口永良部島江致着、即先詰横目四本喜十郎殿江代り合番所江直ニ引移り候、四本氏は舟指仲助所江宿直り被致候、四本氏ハ同七月十二日口永良部島より帰帆被致候、左候て当戌春代横目椎原矢兵衛殿拙者為代二月十日被致着、二月末頃番所引渡、尤御用向等三月朔日引渡候、拙者は庄屋新吉所江致宿直候、同五月五日昼時分鹿籠之庄市船江乗船帰帆之処、風并不宜、竹島辺より佐多御崎沖江流れ、夫より六日夜五ツ時分鹿籠之内白沢津川口江汐掛、翌七日期朝五ツ時分鹿籠牧口浦之善左衛門所江致着一宿、同八日打立喜入坂之下、瀬々串在江一宿、同九日鹿兒島江致在着候事

一 嘉永三戌六月晦日、田上喜藤次殿妻おみよ殿御事、亡父上様御為異父之御兄弟妹にて、拙者為は伯母之訊、今日被致病死候段田上藤八殿より為知申来候、拙者忌五日服十五日相掛候付、翌七月朔日御家老座江児玉十悦殿ヲ以御届申出候事
右ニ付、忌御免左之通

御自分事、忌中にて候得共、御用差支候付忌被成御免候条、明日より可被致出勤旨御差函にて候、以上

七月朔日

下紙半切切封

児玉五兵衛殿

川上右近

百田半切切封にて御受左之通

私事忌被成御免、明日より出勤可仕旨、依御差函御達之趣奉畏候、以上

七月朔日

川上右近様

児玉五兵衛

右之通触番江差渡候事、御本文此下ニ入置也

(本文略す)

児玉市左衛門

田老敵拾七步

納米式斗七升八合

一 五兵衛事、戌八月廿一日奥掛書役江戸詰等にて差支候付、差寄相勤候様豊後殿より御書付ヲ以御側御用人東郷左太夫殿より被仰付候事
但、覚山八郎太殿一紙ニ有之、拙者名代聞之事

差出

酉八月より当戌七月迄之間何御奉公相勤候哉、可申出旨承知仕候、私事御家老座書役被仰付置相勤申候、尤持高式拾六石式斗五升所持仕候、此段申出候、以上

戌八月廿四日

一番与家督

児玉五兵衛印

一番触役所

差出

已札御改元

家内人数六人

内老人数六人

老人死人

現人数四人

出銀四分

右は当戌年考分出銀上納仕候、以上

戌八月廿四日

一番与家督

児玉五兵衛印

二番触役所

右式行戌八月廿四日、出銀共小与頭佐伯善左衛門殿所江下人江為持差遣事

嘉永三年戌九月十二日、小筒鉄炮師家郷原轉殿江五兵衛事致入門候、外ニ川西藤五郎殿考人ニて候、大かね時分より麻袴着用藤五郎殿方江差越、暮時分同道郷原家江差越候処、表玄関江扣居、夜入過表江御進候様致承知、同門人市米万次殿誓詞向取扱被致、名乗書判は此方より認血判いたし候、夫より神文前書等轉殿より被弘相濟、鉄炮ため方指南等有之、終て差身すへ江汲物考ツ、挾肴一ツ被出、考通り取かわし相濟、夫より引取候事

但、川西氏拙者兩人酒八盃樽ニ肴致進上候事

嘉永三年戌九月改児玉五兵衛利容代武道具所持品左之通

松方七郎左衛門正興作銘有、安永七年七月年号有

一 六匁式分鉄炮考挺

但、鑄并藻玉胴乱相添脛ね挾考ツ
大鑄鍋考ツ

銘無し当戌春口永良部島ニて屋久島之者より求

一 三匁式分鉄炮考挺

但、鑄相添

一 陣笠考ツ

安 藤

保 (研究紀要 第三十五卷)

但、唐団輪なく紋所考ケ所ツ、有之、金箔紋

一 半首三ツ

但、是紋付二ツは銀箔紋、考ツハ金箔紋也

一 手鍮考本

但、作藤原国安、裏目上ニ安楽丹後守入道と有之、古作と相見得候、拵青貝たち金めき、輪なし、唐団式寸所打付也

蓋紙左之通

嘉永三年戌十一月

差出

菱刈李之介組
御小姓与
児玉五兵衛

本行同案式通掛張ニして小与頭有馬新七殿所江為持差遣事

二番組小与七番方限
御小姓与
児玉五兵衛

一 持高式拾六石式斗五升

一 御家老座書役

但、御軍役不被仰付置候

一 当戌四拾六歳

一 居所高見馬場

右御用相成候間可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上候、以上

嘉永三年戌十一月

六組触役所

百田堅紙
覚

請取数拾五通

四四五

児玉五兵衛印

四四五

請取数拾五通

四四五

高頭式拾六石式斗五升

出米式石九斗壹升四合

内、真米壹石四斗五升七合

赤米壹石四斗五升七合

真米式斗八升八合 賦米

合真米壹石七斗四升五合

合赤米壹石四斗五升七合

請取数六通

一 真米壹石三斗壹升九合

請取数式通

一 赤米六斗七升六合

請取数四通

一 真米五斗八升九合

請取数三通

一 赤米六斗式升

合真米壹石九斗八合

内 壹斗六升壹合 赤米代ニ入

合赤米壹石式斗九升六合

差引真米式合過

右は私持高当戊秋綱被仰付被下度奉存候、以上

戊十二月二日

高奉行所

半切認

覚

一 高拾七石

一 高六石式斗五升

一 高三石

鹿兒島 犬迫村

鹿兒島 中村

高山 野崎村

右之通私持高所持仕候、以上

戊十二月二日

高奉行所

右之通高綱嘉永三年戊十二月一日高奉行所書役西郷助右衛門殿江相頼候処、即日御高綱相濟候旨承届候、尤式合之過米不請取候事

御賄料并三割引等之儀当亥正月より、重出米之儀は当秋より御免被仰付

候付、御軍役御手当向等之儀可相嗜旨被仰渡趣謹て奉承知、難有次第奉

存候、依之御礼申上候、以上

亥正月廿三日

一番触役所

二番与家督

児玉五兵衛

右之通嘉永四年亥正月廿三日、小与頭福崎清之進殿所より御通達致承

知、尤右通書付ヲ以御礼申出候様致承知候、御進達ハ委細留略ス、江戸

御賄引并御合力銀等且又御当地役料米・御扶持米・旅御扶持米三割御差

引なく、持高ニ相掛三升重之儀も、当亥秋より御免被仰付候事

一 五兵衛当務ニ付、来子秋代藏方願順番前ニ付、嘉永四年亥正月十二日

表向御用番御家老末川近江殿より御勝手方江御書付を以、御座相当之

場所柄願立候様御達相成候、尤御勝手方御家老元高懸近江殿也、書

役其役限礼廻りいたし候、近江殿御方江も御礼罷出置候、外ニ願人跡

一番奥掛塚堀与左衛門殿、次ニ表書役高崎五兵衛、其次ニ菱田伝兵

衛との、初ては大野五左衛門殿也、五兵衛は是れニて三度目也

右御用候間、明廿一日四時麻袴着用ニて可被罷出候、以上

奉児玉五兵衛

嘉永四亥
二月廿日

御勝手方御用人也
谷川次郎兵衛

御書付之写、本書小奉書切紙
一 屋久島奉行
一 御役料米三拾四俵

児玉五兵衛

右之通御役被 仰付、御役料米被下置候
右御格之通可申渡候

二月 近 江

本文にて御家老座清書掛書役より当年迄都合式拾四ヶ年目にて、御役被仰付候事、尤御役料米は書役之内被下置候候持越にて被成下候事、屋久島奉行全躰は御役料銀三枚にて候へとも、御本文通被下候事

右之通嘉永四亥二月廿一日つちのへとら天赦日、御用罷出、御勝手方御用人谷川次郎兵衛殿江御届申上候処、御

(居候様被申付、カ) 桃之間江扣居候処、

御目付種子島次郎右衛門殿、加藤東一郎殿、新納伊十郎殿差引にて一通り習礼いたし、御勝手方御用人谷川次郎兵衛殿より右御書付通読終被相渡、御礼申上相下り候、尤列席伊十院喜左衛門殿にて候、頭習礼通り鳥渡罷出、末席より御礼いたし、是れ江と被申候節進ミ出、頭ハ□之本近く罷出、頭を提ケ居候処、本文通読方之上被相渡候事

右相済居候処、御目付より御用申来、罷出候処、近江殿被謁候筋相心得候様被相達、夫より引取候、尤御勝手御用人方江御物書老通、誓詞願老通、御勝手方書役大迫喜右衛門殿江頼認賞、同人より差出方相済候事
一 御側御用人衆方江い細書老通大迫氏江相頼差出候事

右ニ付御礼廻り左之通
御城代御家老座

御家老 市成

安 藤

保 (研究紀要 第三十五卷)

黒木 島津豊後殿
御勝手方御家老

島津石見殿
若年寄

末川近江殿

島津求馬殿

若年寄

大目付

喜入多門殿

樺山伊織殿

大目付

川上矢五太夫殿

仰渡御勝手方御用人

谷川次郎兵衛殿

児玉五兵衛

右御用之儀候間、明廿二日四時麻袴致着用可被罷出候、病氣等候ハ、同格名代可被差出候、以上

嘉永四亥

二月廿一日

大番頭座

屋久島奉行

児玉五兵衛

右御役ニ付、一代新番被入置候

二月 大番頭

右之通嘉永四亥二月廿二日罷出、大番頭座御届申出候処、扣居候様被相達、四ツ後御本文通小奉書切紙にて、大番頭島津隼見殿より読終之上被相渡、御礼いたし相下、再隼見殿詰席しきり内江罷入御礼申上候処、目出度と挨拶被相達、夫より相下り候

一 大番頭座江御物書差出候様致承知候付、是又大迫喜右衛門殿江相頼、差出方相済候事

四五七

右ニ付御礼廻り左之通
同番御家老

大番頭 上之園

黒木 島津豊後殿

島津隼見殿

大番頭

千石馬場 大番頭

知覧 島津右門殿

町田堅物殿

一 御役被仰付候当日より屋久島奉行座江相詰候事

但、当同席屋久島奉行皆吉金六殿、山下喜右衛門殿、西田弥右衛門殿、川田彦九郎殿、尤彦九郎殿ハ屋久島在勤務ニ付乗船被致候ハ

は、出勤は間々有之候、尤羽織袴ニて出勤被致候、代り在番御馬預屋久島奉行勤田尻小次郎殿也、江戸詰同席伊地知十郎左衛門殿、同御留守居附役勤野村源一郎殿、同寺社方取次勤東次郎左衛門殿、此人数ニて候事、野村氏、東氏は掛ケ飛官ニて候事

留差出

此節 公義御尋者ニ付、旅人召抱候有無可申出旨承知仕候、私儀旅人召抱候儀無御座候、此段申出候、以上

亥四月十七日

一代新番

児玉五兵衛印

右之通触支配有馬市左衛門殿所江差出候事

写

児玉五兵衛

右転役被仰付候得共、当年蔵方之儀御家老座書役蔵方被仰付候員数之内ニて被仰付被下候様御内意申上候事

右之通嘉永四年亥四月八日、御家老座書役一統より御家老座島津豊後殿江御内意御勝手方御家老末川近江殿江御内意申上呉候旨長野彦七殿より致承知候付、豊後殿近江殿江即日御礼罷出申候、近江殿江は御内

通願、御直ニ御礼申上候、豊後殿は些御不信按之由ニて御内通不致候事

蓋紙左之通、同案式冊掛張ニいたし、表之方上下掛印、裏之方真中ニ卷ケ所掛印

嘉永四年亥五月

差 出

二番与小与七番方限
一代新番

児玉五兵衛

一代新番

児玉五兵衛

一 持高式拾六石式斗五升

一 屋久島奉行

但、御軍役不被仰付置候

一 当亥四拾七歳

一 居所高見馬場

右御用相成候間可申出旨被仰渡趣承知仕、右之通御座候間、此段申上候、以上

嘉永四年亥五月

児玉五兵衛印

右之通小番新番触支配宮内藤助殿所江、亥五月七日迄出掛、下人江為持差遣候処、慥ニ受取候段承届置候事

高頭式拾六石式斗五升

諸出米式石四斗卷升五合

高三石

高山 野崎村

米卷石卷斗九升四合

右卷行柏原出物蔵入

高六石式斗五升

鹿見島 中村

米老石式斗式升壹合

右倉行当所出物蔵入

右は私持高出米上納仕候間、此段申上候、以上

亥五月

児玉五兵衛印

高奉行所

右此節三升重御免ニ付、差引出米書出帳面式冊ニメ不及掛張高奉行所江亥五月廿二日西郷助右衛門殿江頼差出候事
ふた紙左之通

嘉永四年亥五月

持高出米書出

児玉五兵衛

旅人召抱候有無可申出旨被仰渡趣承知仕、私儀旅人召抱置候者無御座候、此段申出候、以上

亥五月廿三日

一代新番

児玉五兵衛印

右之通触支配宮内藤助殿所江為持差遣候事

一 亥五月廿四日

太守齊彬公御初入部、初て今日惣出仕被 仰出、同役皆吉金六、西田弥右衛門、伊地知十郎左衛門、五兵衛出殿、御対面ニおゐて 御目見被仰付候、諸御役人多人數有之、引続キ諸士も御目見、拾壹升り有之候事

但、五兵衛朝出前ニ付、御目見濟老人居久島座江罷出候、書役は久留助八老人也

安 藤

保 (研究紀要 第三十五卷)

一 亥五月廿九日五兵衛老人居殿、明朔日月并之御礼御請被 遊候付、

習礼として桜之間江罷出、於御書院五兵衛頭席ニて一篇廻り、九ツ時習礼相済、詰所江は不罷出引取候事

一 嘉永四亥七月十日、五兵衛事御家老座書役蔵方被仰付候、(拙者老人居前六十三両ニ致附属候事) 其數之内ニて、今日加世田小松原出物蔵被

仰付候旨、高奉行国分十左衛門殿より児玉十悦致承知、御取次御勝手方御用人二階堂源太夫殿より蔵方名代名前児玉十悦ニと申出置候、引合出物蔵同役白石覚左衛門殿ニて候事

本文通拙者案文いたし、大迫喜右衛門殿江認方相頼、同人より御勝手方御用人谷川次郎兵衛殿江差出賞候事、屋久島方日帳ニも留有之

留覚

印鑑相古、此節改印仕候付、今日より相用申候、此段御届申上候、以上
嘉永四亥七月十六日 児玉五兵衛

古印鑑不用格護いたし置也

ドラ石



右長井仲兵衛殿調



改印 利容

唐金調獅子之形ち、尾之方上イン肉入もかね
右御小姓与有馬武左衛門殿調
手間料老貫五百文

差出

已札御改元

家内人数六人

内老人居人

兎人死人

現人数四人

出銀四分

右は当亥年卷分為出銀上納仕候、以上

亥八月十日

一代新番

児玉五兵衛印

差出

成八月より当亥七月迄之間何御奉公相勤候哉、可申出旨承知仕候、私事
成八月より当亥二月廿日迄御家老座書役にて奥掛書役勤、同廿一日屋久
島奉行御役被仰付相勤申候、尤持高式拾六石式斗五升所持仕候、此段申
出候、以上

亥八月十日

一代新番

児玉五兵衛印

右卷分出銀并小普請銀差出、触支配黒木源右衛門殿江為持差遣候事、尤卷分出銀
四拾文為持差遣候事

宮内藤助組合

触支配并

二才方取締

児玉五兵衛

右之通被仰付候

十月

右之通嘉永四亥十月十三日、五兵衛大番頭座江罷出、近在掛衆江御届申
出候、尤直ニ大番頭島津隼見殿より被仰付候旨、御書付被相渡候、写本
行通ニて候、尤昨十二日御用触致承知候事

一 嘉永四亥九月廿五日、海老原庄兵衛殿流儀、御家老衆其外御役々御

見分有之候、五兵衛儀(系)茅術手続相勤、打出し昌山吉次郎殿ニて候、同
廿七日於演武館 太守齊彬公御覽有之、罷出同断相勤候、七ツ後相
濟歸り掛、海老原氏江祝儀ニ取掛、夫より御酒為戴皆吉金六殿所座本
江差越候事

御自分事産穢ニて候得共、御用差支候付穢被成御免候条、明日より可被
致出勤旨御差図ニて候、以上

嘉永四年亥

十月十九日

児玉五兵衛殿

谷川次郎兵衛

右下紙半切切封ニて候、ふう御付受書左之通

私事産穢被成御免明日より出勤可仕旨被仰渡趣奉畏候、以上

十月十九日

谷川次郎兵衛様

児玉五兵衛

右之通百田半切紙ニ認、切掛ニて触番江相渡候事

一同案式冊掛張表之方上下掛印、裏之方真中卷ケ所掛印
ふた紙左之通

嘉永四年亥十一月

差 出

二番与小与七番方限
一代新番

児玉五兵衛

一代新番

児玉五兵衛

一 持高式拾六石式斗五升
一 屋久島奉行

但、御軍役不被仰付置候

